

2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年12月5日

ニチュ三菱フォークリフト株式会社

長年にわたり、お客さまにご愛顧頂きました日本輸送機株式会社と三菱重工業株式会社のフォークリフト事業部門が2013年4月1日付にて事業を統合し、新たに「ニチュ三菱フォークリフト株式会社」(英文名:Mitsubishi Nichiyu Forklift Co., Ltd.)としてスタートいたしました。

会社概要

商号	ニチユ三菱フォークリフト株式会社 (英文名: Mitsubishi Nichiyu Forklift Co.,Ltd.)
本社所在地	京都府長岡京市東神足2丁目1番1号
設立	1937(昭和12)年8月
資本金	48億90百万円(2013年4月1日現在)
事業内容	バッテリーフォークリフト、エンジンフォークリフト、搬送用ロボット、自動倉庫、 WMS 等の物流システム商品、電気自動車、モノレール等の開発・設計・販売
事業所	【国内】京都・滋賀・相模原 【海外】アメリカ(ヒューストン)、欧州(オランダ・フィンランド)、中国(大連・上海)、アジア(タイ・シンガポール・マレーシア)等
年間生産能力	約65,000台
連結従業員数	約5,400名

主な生産・販売拠点



2014年3月期第2四半期の決算概要

取締役社長 二ノ宮秀明

決算の概況

経営環境

2013年度前半の世界経済は、一部に底堅さが見られるようになったものの、成熟国・新興国を問わず、ばらつく状況が見られた。新興国においては、中国がやや持ち直したが東南アジアは成長鈍化、ブラジル・ロシアはほぼ横ばいの状況が続くなど、景気拡大は総じて緩慢なものとなったが、需要そのものは比較的堅調に推移。成熟国においては、欧州地域が景気低迷から依然回復せず、需要も低迷したが、米国で回復基調が続き、日本も第2四半期以降持ち直しの傾向が見え、需要は堅調に推移した。

業績の概要

従来のセグメント区分、「国内フォークリフト事業」「海外事業」「物流システム事業」及び「その他事業」を、当期より「国内事業」、「海外事業」に変更した。

国内事業は、需要の取り込みによる新車の拡販、サービス等の着実な売上増に努め、三菱重工のフォークリフト事業承継の結果、増収・増益となった。

海外事業は、三菱重工のフォークリフト事業承継の結果、欧州地域での需要低迷の影響を受けたものの、米国、東南アジアの各地域が増加し、大幅な増収・増益。

1. 連結財務諸表の概要

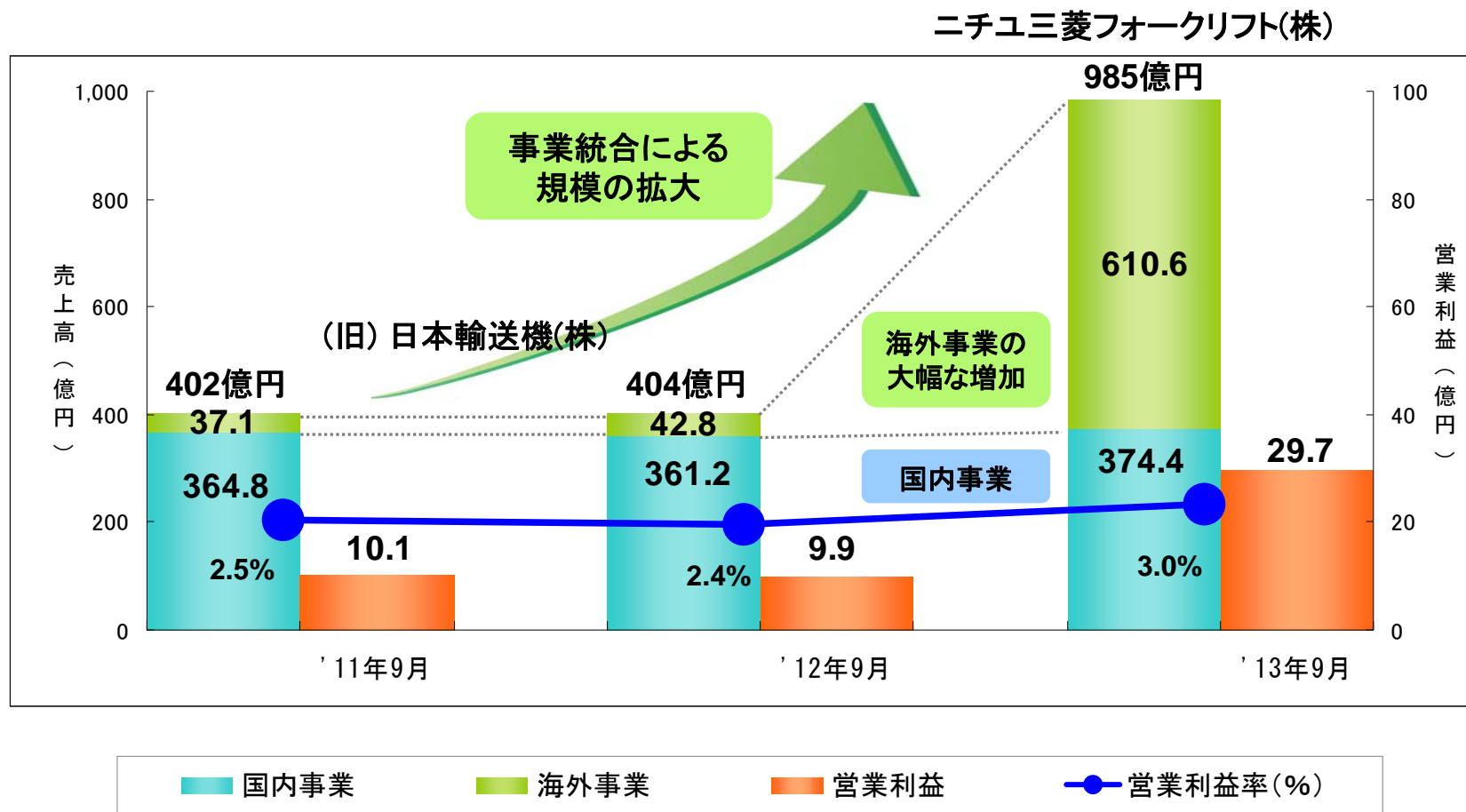
(単位：百万円)

	2012年9月期	2013年9月期	前年比増減	
売上高	40,399	98,506	58,107	143.8%
営業利益 (営業利益率)	985 (2.4%)	2,968 (3.0%)	1,983	201.3%
経常利益 (経常利益率)	1,078 (2.7%)	2,959 (3.0%)	1,881	174.4%
当期純利益 (当期純利益率)	513 (1.3%)	(注) 579 (0.6%)	66	12.9%

(注) 2013年9月期は事業承継後のグループ再編により、子会社の繰延税金資産の取り崩しを実施。

	2012年9月期	2013年9月期	前年比増減	
総資産	65,269	146,895	81,626	125.1%
総負債	46,807	101,203	54,396	116.2%
純資産	18,462	45,692	27,230	147.5%

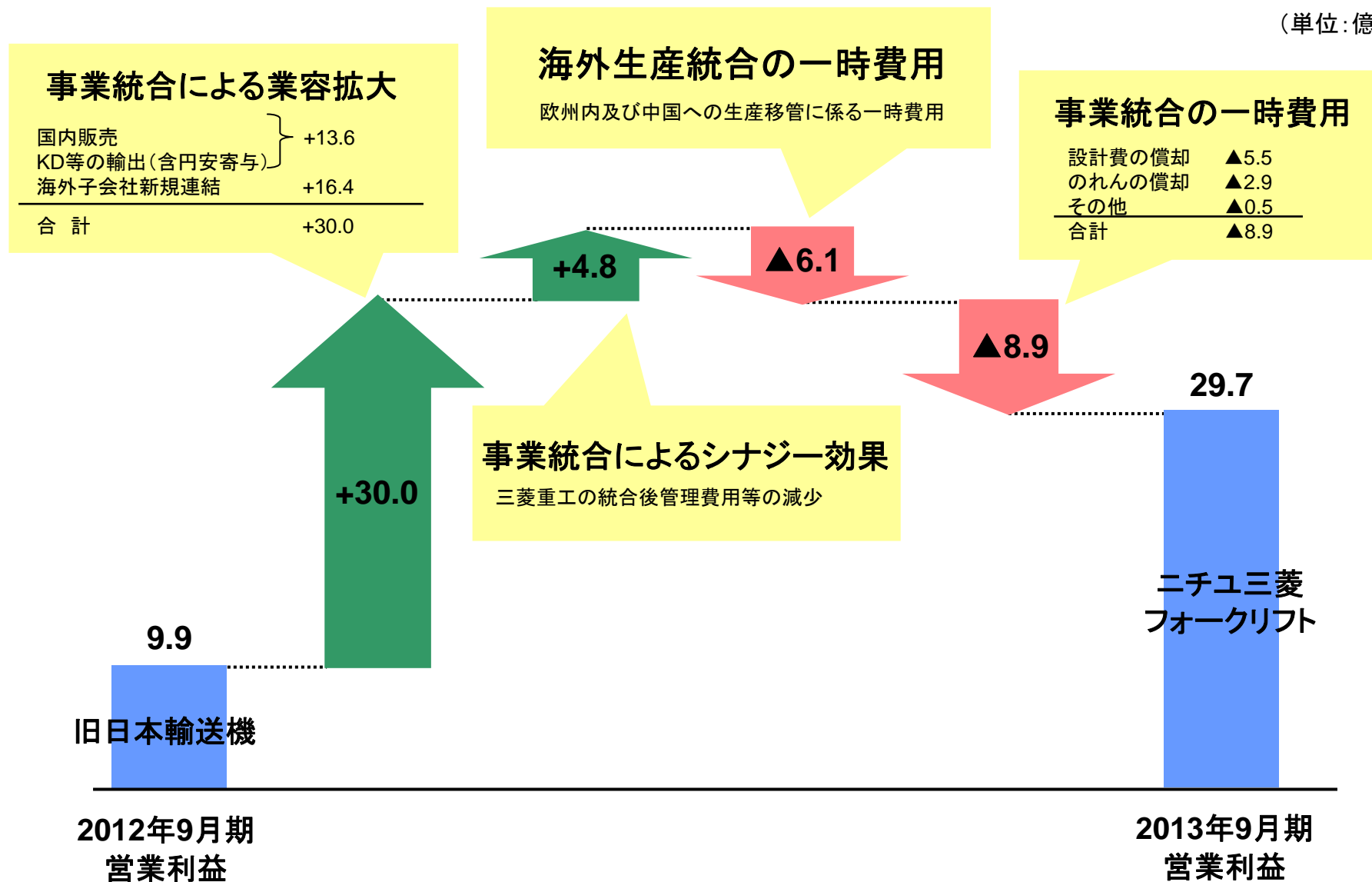
2. 業績の推移



欧州地域での需要低迷の影響を受けたものの、米国、中国、東南アジア、国内の各地域が堅調に推移し、売上高は985億円(前年同期比143.8%増収)、営業利益は30億円(前年同期比201.3%増益)。

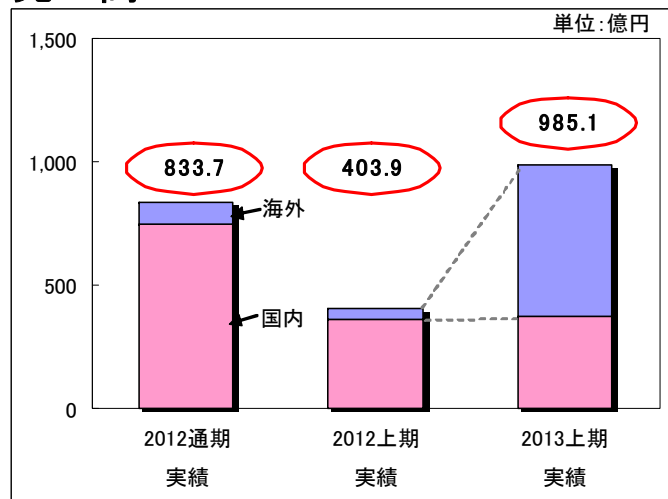
3. 113期 上期 連結営業利益(実績)増減要因

(単位:億円)

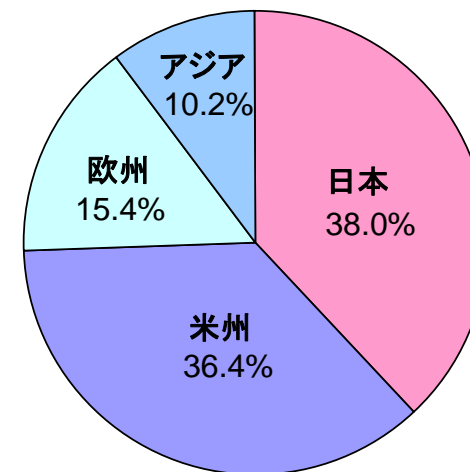


4. セグメント別業績

売上高



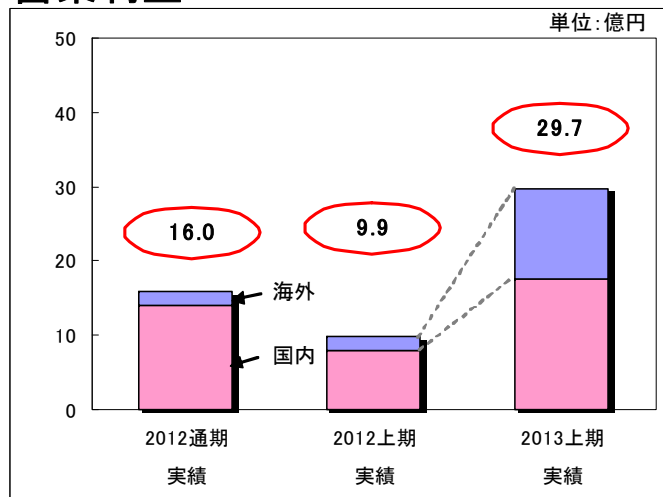
地域別売上高(2013年度上期)



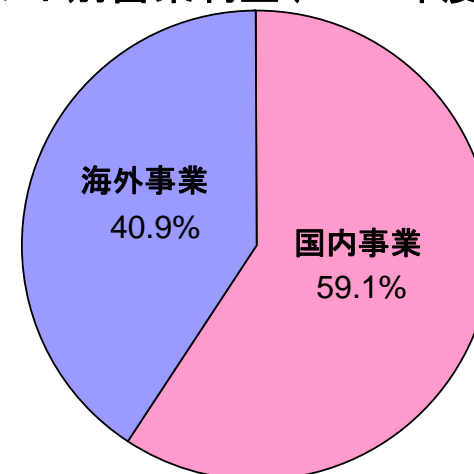
前年同期比
2.4倍



営業利益



セグメント別営業利益(2013年度上期)



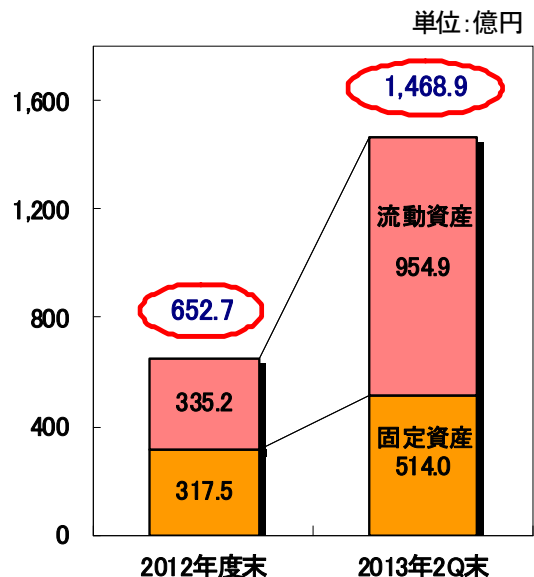
前年同期比
3.0倍



※セグメントは従来「国内フォークリフト事業」「海外事業」「物流システム事業」および「その他事業」に区分しておりましたが、当期より「国内事業」「海外事業」に変更しております。また、2012年上期実績についても新セグメントで算出しております。

5. 連結貸借対照表

資産

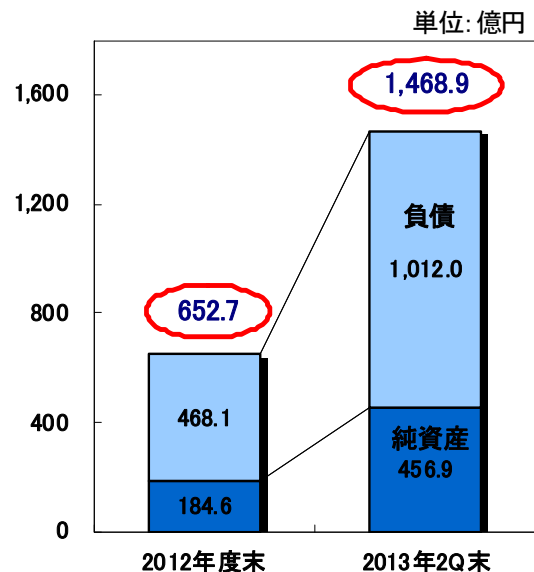


資産
+816億円増



	主な増減要因 (2013年2Q-2012年度末)		
	計	三菱重工 より承継	その他
流動資産	620	591	29
有形固定資産	153	150	3
無形固定資産	32	27	5
固定資産計	197	197	▲1
資産合計	816	788	28

負債／純資産



負債
+544億円増
純資産
+272億円増



	主な増減要因 (2013年2Q-2012年度末)		
	計	三菱重工 より承継	その他
流動負債	464	369	94
固定負債	80	85	▲4
負債合計	544	454	90
純資産合計	272	270	3
負債・純資産合計	816	724	93

6. 主な経営指標

	指標	算式	2012年度 通期	2012年度 上期	2013年度 上期	コメント
総合	総資本経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}}$	3.3%	1.7%	4.0%	
	自己資本利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	5.5%	3.0%	2.6%	事業再編による税効果取崩を除く場合は 6.0% と大幅改善
収益性	売上高経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}}$	2.6%	2.7%	3.0%	
	売上高当期利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	1.2%	1.3%	0.6%	事業再編による税効果取崩を除く場合は 1.3% と前年並
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.3回	0.6回	1.9回	承継による売上高の増加
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	3.9回	2.0回	5.4回	”
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	12.1回	11.1回	3.7回	承継による棚卸資産の増加および海外生産移管に伴う一時的な増加
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	28.7%	27.6%	29.8%	
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	0.7倍	0.7倍	1.0倍	承継による海外子会社の借入金増加
株主関連	株価収益率 (PER)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株当り利益}}$	17.9倍	20.3倍	46.0倍	事業再編による税効果取崩を除く場合は 20.4倍 と前年並
	株価純資産倍率 (PBR)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株当り純資産}}$	1.0倍	0.6倍	1.2倍	事業承継による新株発行と株価上昇により指数変動

7. 2014年3月期通期業績見通し

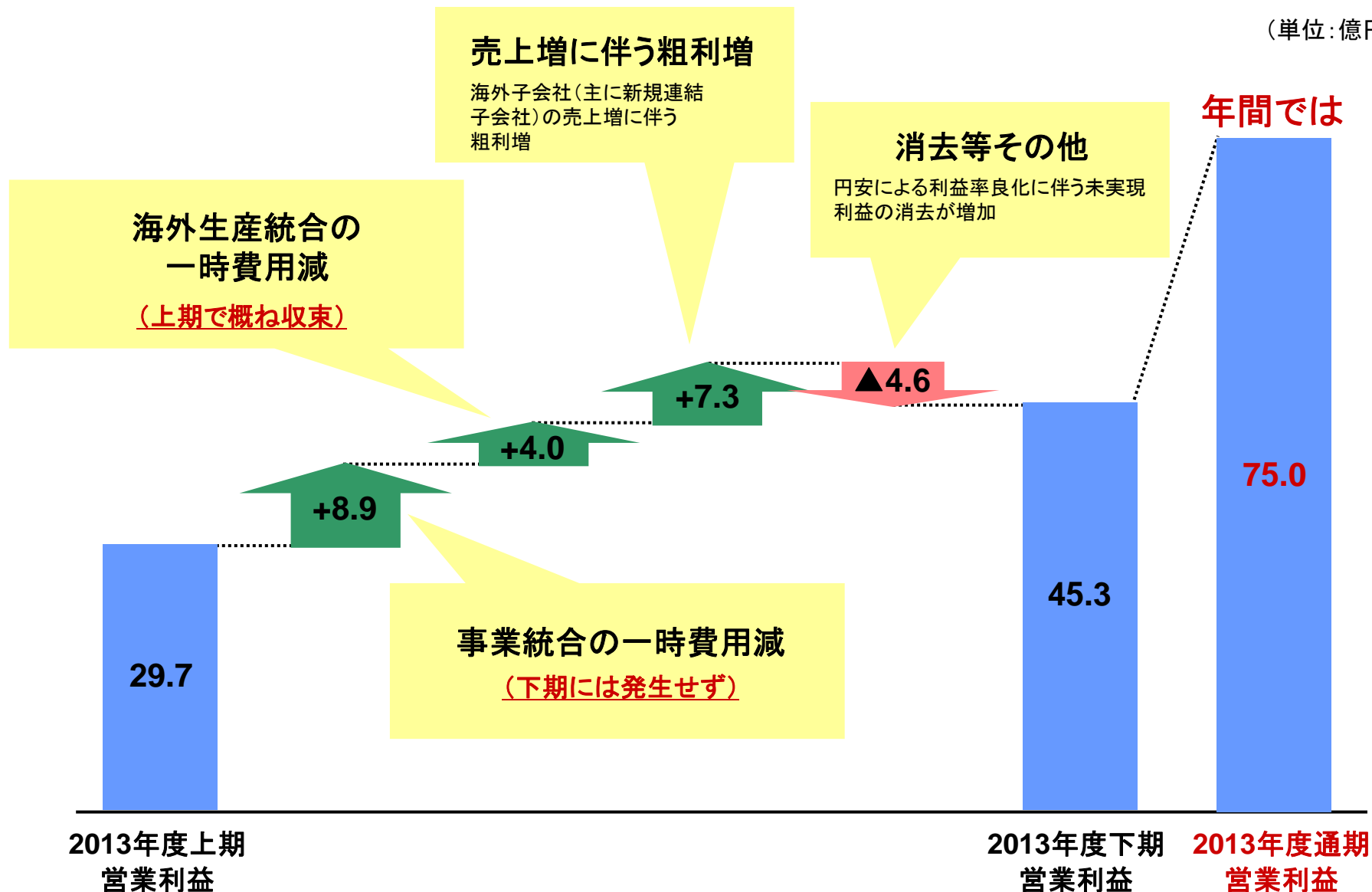
単位:百万円

	2013年3月期実績 ※	2014年3月期 予想
売上高	83,367	200,000
営業利益	1,595	7,500
営業利益率	1.9%	3.8%
経常利益	2,138	7,300
経常利益率	2.6%	3.7%
当期純利益	1,035	3,000
1株当たり配当	7円	8円

※2013年3月期実績:旧日本輸送機(株)

8. 2014年3月期通期業績見通し(連結営業利益増減)

(単位: 億円)



新中期経営計画2014-2017

- *Best Integration 2017* -

取締役社長 二ノ宮秀明

1. 統合の理念(2013年6月公表)
2. 事業統合の推進状況
3. 事業環境
4. 中期経営計画の基本方針
5. グローバル事業拡大
6. 地域密着お客様サービスの展開
7. 地域密着生産体制の実現
8. 地域密着開発体制の実現
9. 数値計画
10. 企業理念

1. 統合の理念(2013年6月公表)

Best Integration 2017

『パーフェクトな補完関係』『規模の経済の追求』により、
シナジー効果の最大化を早期に実現する。

【商品フルラインアップ】

- ・電気車 ・エンジン車
- ・物流システム・周辺機器
- ・電気車／エンジン車共通化
- ・欧米仕様電気車
- ・新興国向け戦略車

【技術開発力】

- ・ニチユが日本で培った
技術力と顧客対応力
- ・三菱の新技术と
省エネへの対応力
- ・Roclaの先進的な
デザイン力

シナジー
最大化

【グローバル体制】

- ・グローバル最適生産／
最適調達体制の構築
- ・中国・アジアにおける販売
ルート共通化／最適化

【その他】

- ・間接／管理部門の
統合、効率化
- ・開発生産における
重複投資の回避
- ・販売／生産統合による
経費削減

2. 事業統合の進捗状況

Best Integration 2017

■ シナジー効果最大化に向けたマイルストーンを設定・統合推進中

フェーズ1(2013年度)

基本構想・着手	新たなビジョン、行動規範の策定	実施状況	企業理念・経営方針策定済
	統合商品開発計画の策定		部門横断活動で計画を策定済
	海外販売拠点の統合と拡充		構想完了、再編推進中
	最適グローバルSCM※1とソーシングの検討		部門横断活動で検討済、実行段階へ
	シナジー創出によるコストダウン推進		構想完了、VE※2と海外調達で推進中

フェーズ2(2013年度～2014年度)

戦略実行	生産／調達体制の最適化実施	実施状況	フェーズ1検討結果を受けて実施段階へ
	地域別／製品別仕様とコンポーネント見直し実施		開発体制の見直しによる推進
	グローバルITシステムの構築		ITインフラの強化・見直し

フェーズ3(2015年度～)

拡充・発展	販売／生産拠点統合の完了	実施状況	中期経営計画に折り込み推進
	統合商品開発計画に基づく新製品投入		
	成長市場／事業へのリソース集中		

※1 SCM: サプライチェーンマネジメント

※2 VE: バリューエンジニアリング

3. 事業環境

Best Integration 2017

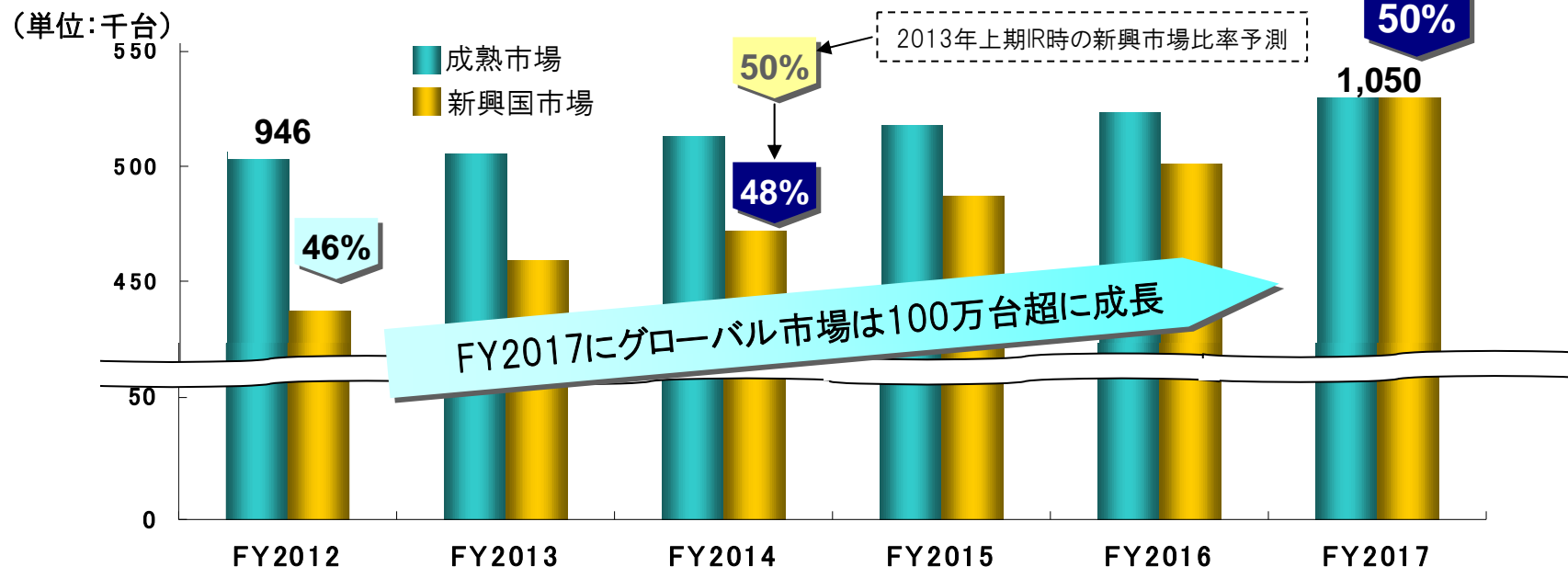
■ 経済動向

- 成熟国では米国で回復基調が継続、日本も2013年中盤以降持ち直し、堅調に推移する。欧州は底打ちの様相なるも、急回復は期待できない。
- 新興国ではASEAN等一時的に成長が鈍化する傾向であるが、中期的に世界経済成長の牽引役となることに変わりはない。

■ フォークリフト市場動向

- 世界市場の成長ペースは鈍るものの、米州、新興市場を中心に堅調に推移。2017年の市場規模は1,050千台(2012年比+11%)へ。
- 新興市場は2017年に成熟国(西欧・北米・日本)に肩を並べる規模に。

* 新興市場比率・・・2012年:46%⇒2017年50%



【事業環境認識】

1. 新興市場の成長速度が鈍る一方で、北米・日本等成熟市場が回復の兆し
2. お客様ニーズの多様化、「規模の経済」と「お客様密着」両立が必要
3. 業界内での合従連衡の加速、中位プレイヤーの淘汰

【中期経営計画(*Best Integration 2017*)の基本方針】

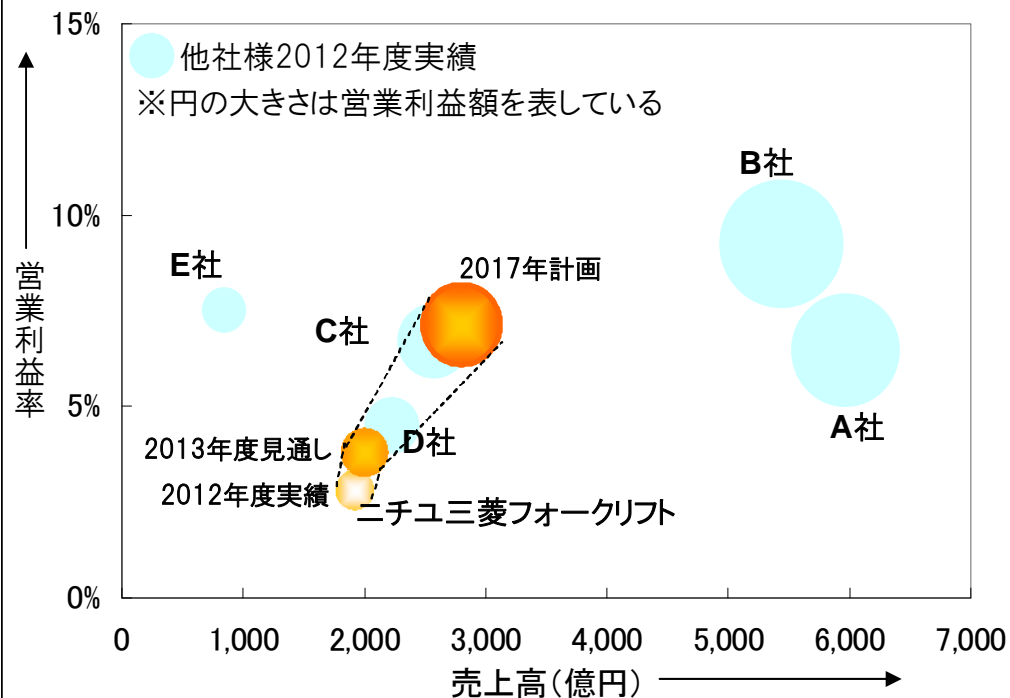
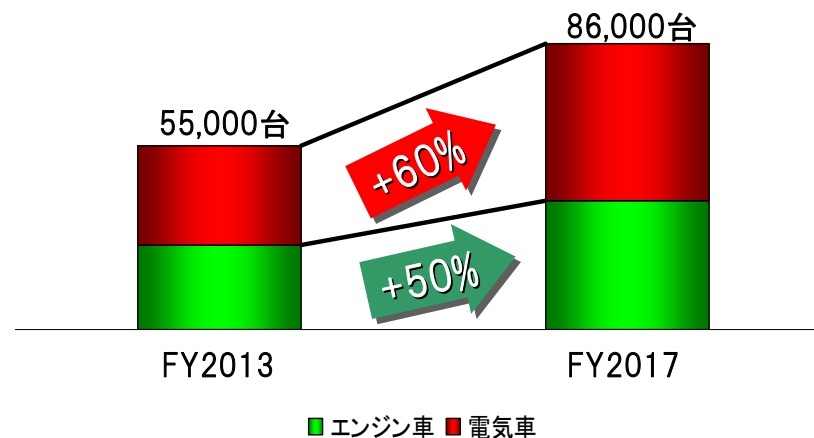
1. グローバルな事業展開で更なる成長を目指す
(新興市場での拡大、成熟市場での成長、圧倒的な3位を目指す)
2. 地域密着型のお客様サービスの展開(グローバル事業展開)
3. 機器売りから物流ソリューション事業への変革

5. グローバル事業拡大

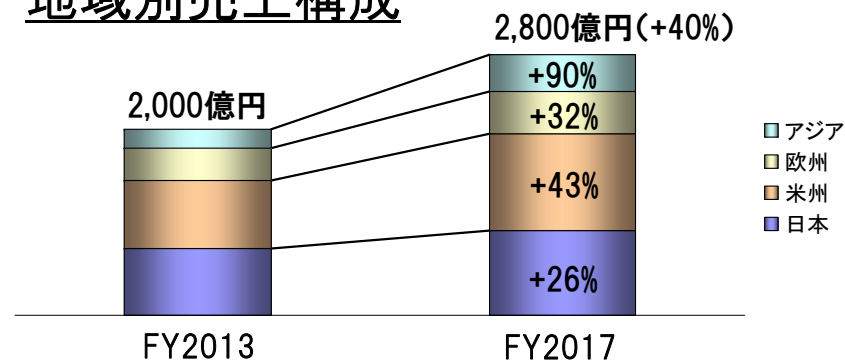
Best Integration 2017

- 海外の電気車・ウェアハウス系機種を中心に事業拡大を図る
- 現地生産を拡大し、地産地消を推進
地域密着による納期・品質・コスト競争力強化を図る。

グローバル販売台数



地域別売上構成



6. 地域密着お客様サービスの展開

Best Integration 2017

北米での直販化推進と

現地生産拡大

現在2拠点から8拠点へ拡大
主要地域をカバー



MCFA直販店 Daily Equipment (ミシシッピ州)

ウェアハウス系及び中・大型車の
北米現地生産拡大



アウトドア系機種

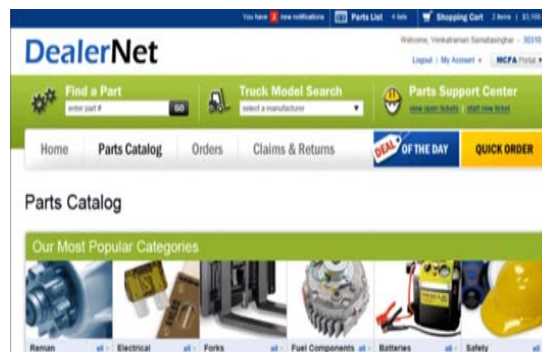


ウェアハウス系機種



アジア・中国での販売統括機能統合と

- アジア・中国における旧ニチユ系と旧三菱系の販売オペレーション統合
- 電気車の旧三菱販売網での拡販
- 補用部品オペレーション統合による供給力強化
- WEBを使った補用部品事業のアジア・中国展開
- 中国でのサービス網拡大 (サービス工場拡張)



サービス部品販売ウェブサイト

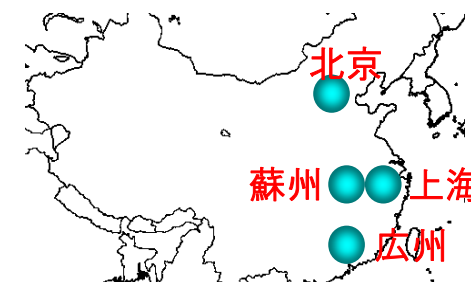
サービス機能拡大



MCFS社(シンガポール)



NIX社上海(浦西)ワークショップ



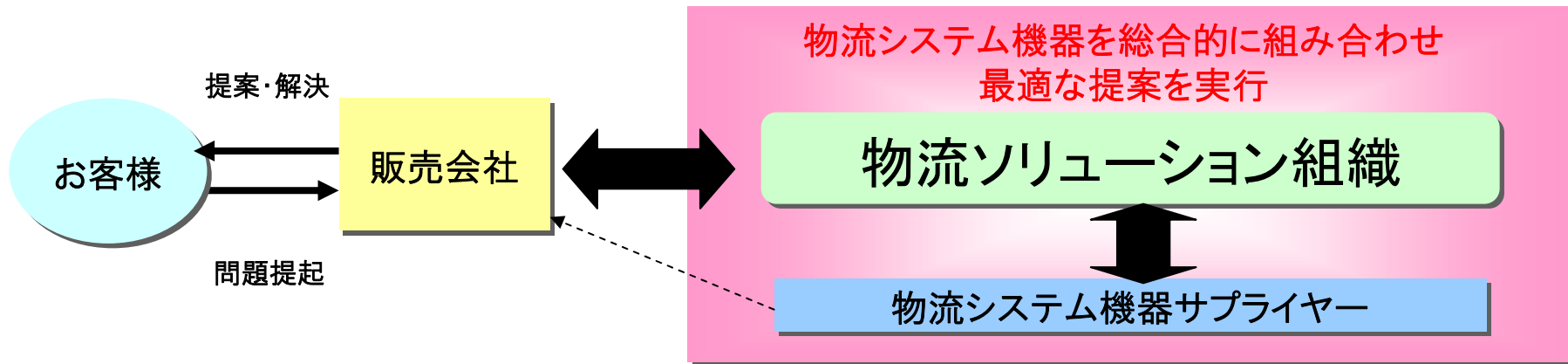
中国ワークショップ展開図

6. 地域密着お客様サービスの展開

Best Integration 2017

日本での物流システム事業拡大

物流システム機器を総合的に取扱う専門部門を設立。
AGV(自動搬送システム)、自動倉庫、ラックフォーク、WMS(ウェアハウスマネジメントシステム)、物流
周辺機器を組合わせた最適提案を行う。



北欧での物流ソリューション事業展開

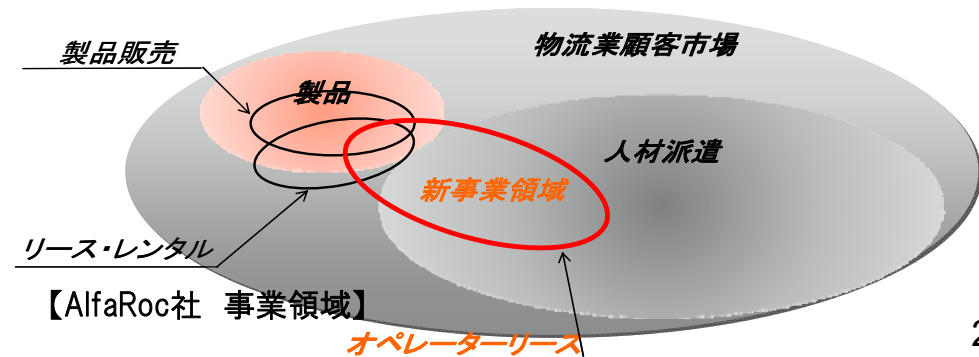
Roclaはフィンランドで、オペレーター+機器レンタル事業をフィンランドで展開中。(AlfaRoc社)
成長可能性のあるロシア・東欧等、海外展開を推進。



Rocla製オーダーピッカー



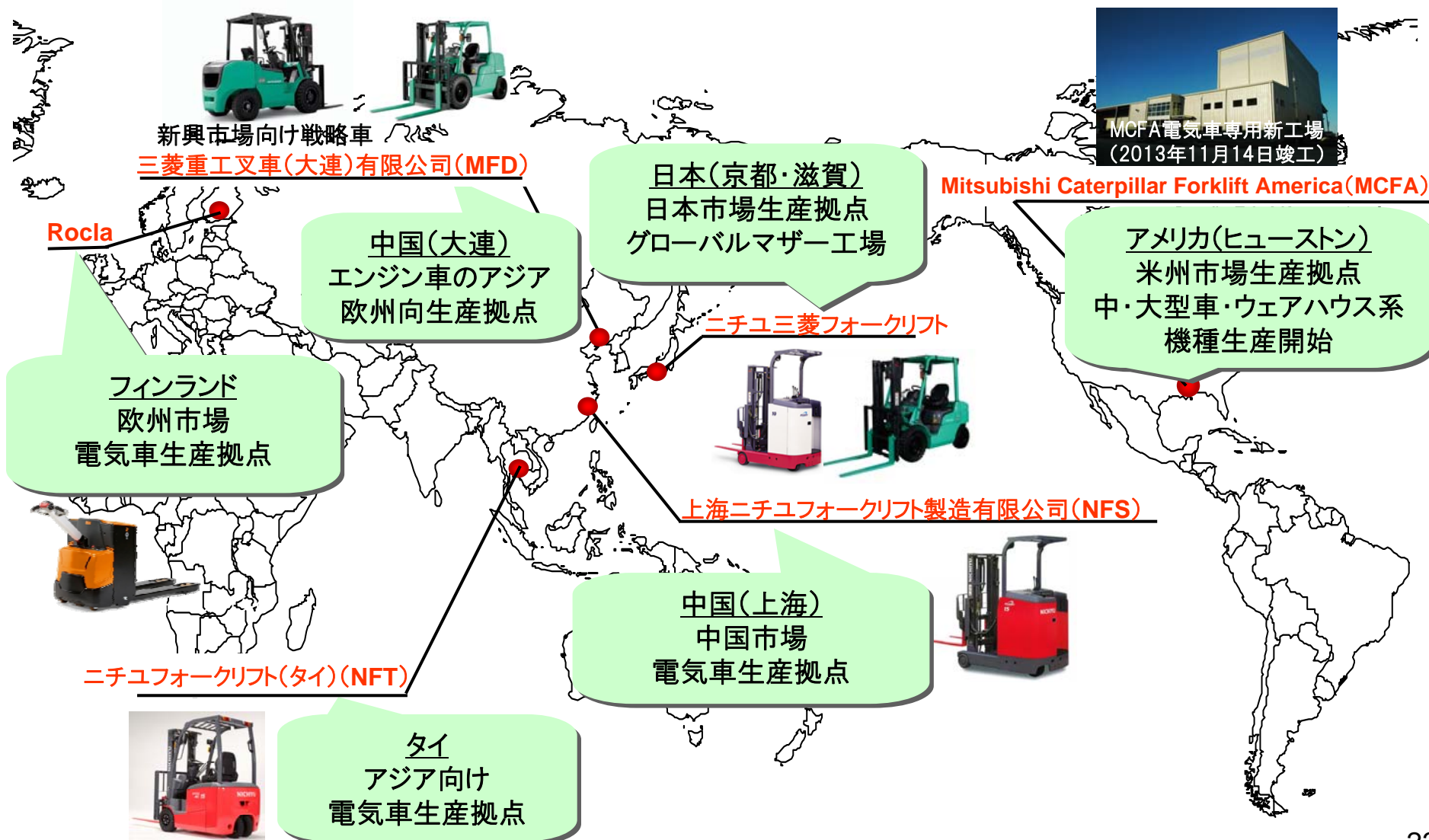
Rocla製自動搬送システム



7. 地域密着生産体制の実現

Best Integration 2017

全世界6拠点をグローバル事業拡大をサポート



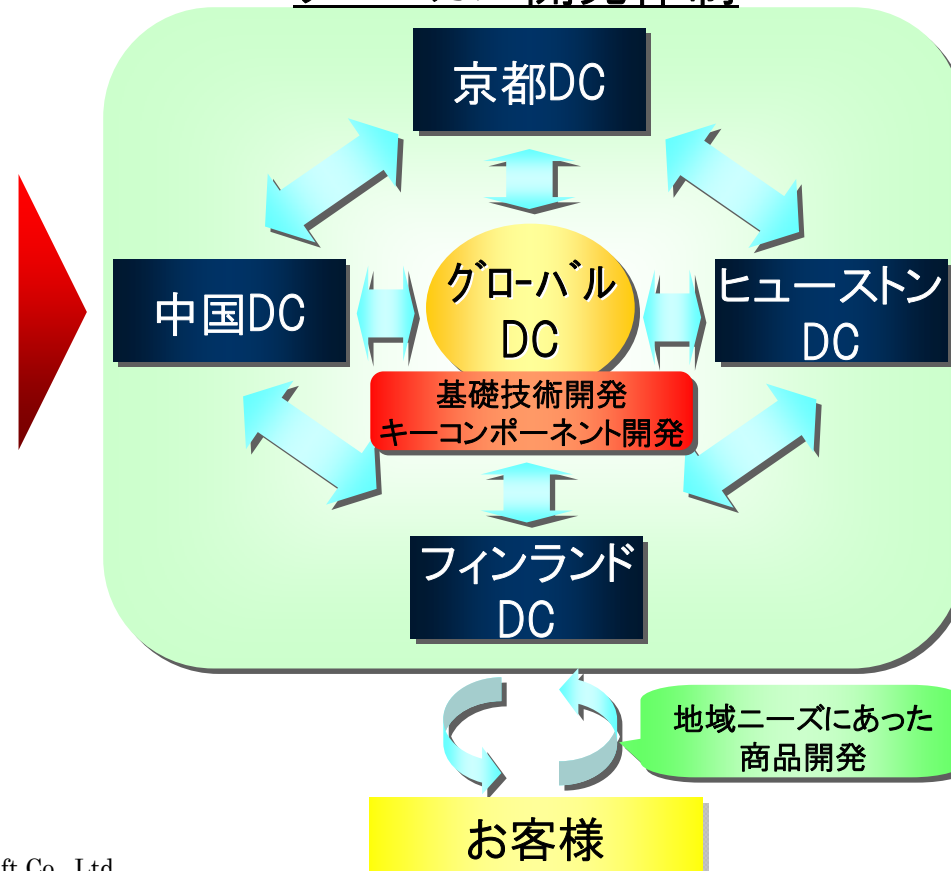
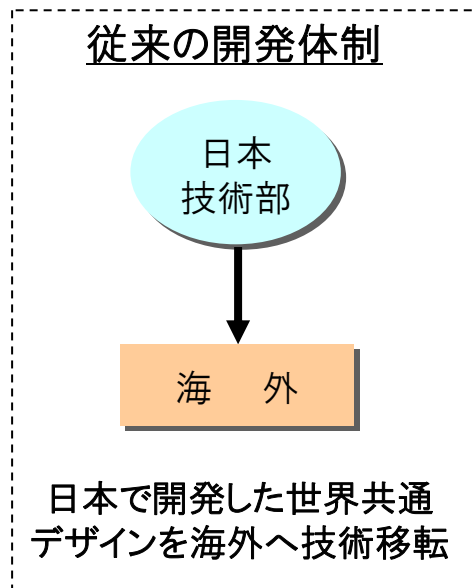
8. 地域密着開発体制の実現

Best Integration 2017

地域密着(グローバル)開発体制の実現

- ・地域デザインセンター(LDC)を設立し、地域のお客様ニーズにあった商品開発を行う。
- ・グローバルデザインセンター(GDC:日本)は主として基礎技術とキーコンポーネント開発を担当。
- ・フレキシブルにLDC間、GDC・LDC間の技術横通しを実施。

グローバル開発体制



欧州デザインステアリング

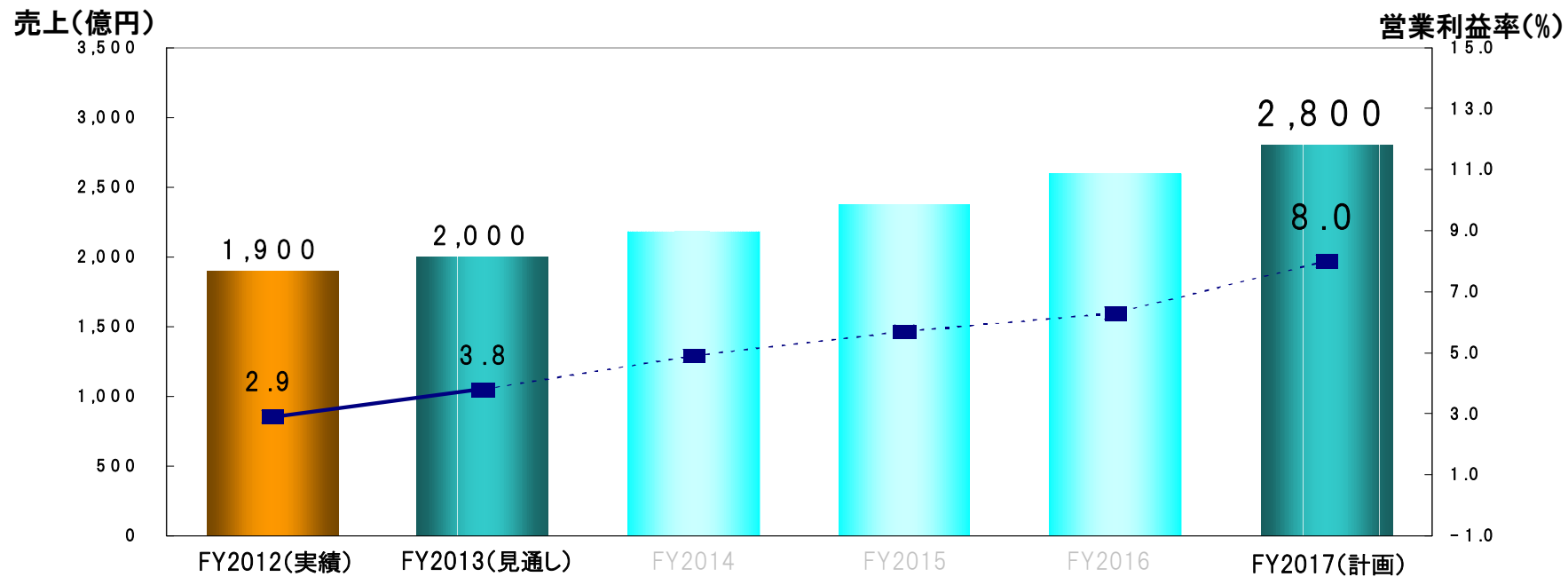


欧州向コンセプト車
(フィンランドDC)

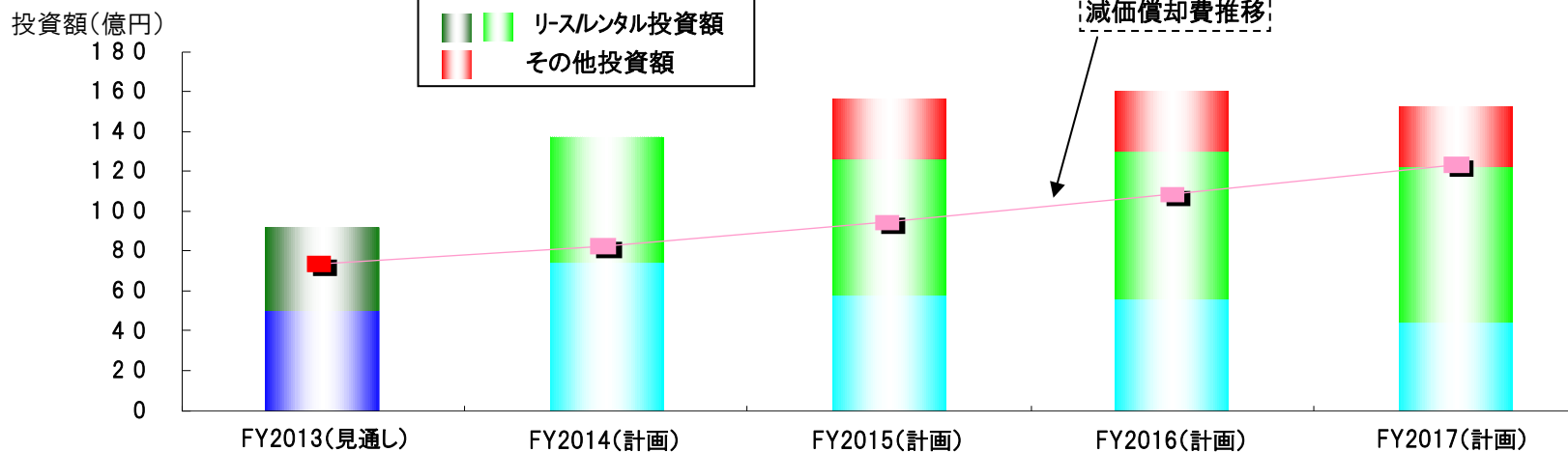
9. 数値計画

Best Integration 2017

売上・営業利益率



投資計画



【企業理念】

私たちニチュ三菱フォークリフトは、お客様と共に創る物流技術を通じて、グローバル社会の未来づくりに貢献します

【経営方針(4つの約束)】

1. お客様への約束

お客様に信頼される良きパートナーとして、心からご満足いただける商品・サービスを提供します

2. 品質・技術への約束

世界に選ばれる品質とあくなき技術革新への挑戦で、新たな価値を創造し続けます

3. 社会への約束

健全な企業活動を通じて、グローバルな視点で地球環境の保全に努め、地域社会の継続的な発展に貢献します

4. 従業員への約束

一人ひとりの個性と創造性および挑戦する姿勢を尊重し、世界の舞台上で成長するよろこびを共有できる、明るく働き甲斐のある企業づくりを目指します

注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

お問い合わせ先

ニチユ三菱フォークリフト株式会社
総務課 松浦、小泉

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1
TEL:075-951-7171 FAX:075-955-3797
<http://www.nmf.co.jp>